様式３

令和４年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

学校番号 64

福岡県立　明善　高等学校（全日制課程）

自己評価

学　校　運　営　計　画　（４月）

学校運営方針	「克己・盡力・楽天」の校訓に基づく育成を全ての指導の基本とし、「楽天」の域に達するグローバルリーダー（世界的な視野を持ったリーダー）を育成する。 『確かな学力』、『豊かな人間性』を高める主体的な学びを通して、『高い志』を育成する。		評価（総合）
昨年度の成果と課題	**年度重点目標**	**具体的目標**	
ＳＳＨ事業第２期五年次の取組を中心として、全科全学年で課題研究に取り組ませた。その結果、主体的に学習に臨む意欲や姿勢が見られ一定の成果があった。一方、本校教育活動の根幹である授業の質の向上については、授業デザイン研究として改善に努めた。授業における「問い」の工夫をすることや、「評価」について研究することによって一定の成果が見られ、授業と評価の一体化を目指すべくさらに取組を深化させていく。 本年度は、SSH経過措置として、今までのノウハウを活用して課題研究の質の向上を図りたい。 また、前年度に引き続き授業デザイン研究を推進し、授業改善や定期考査及び校内模試等校内実力試験の質の向上に取り組む。また、本年度からの新学習指導要領に向けて教育課程の編成及び観点別評価について検討を重ね、丁寧に作成していく。	「基礎的・基本的な知識及び技能」の確実な習得と質の高い授業や評価の創造を目指し、「確かな学力」の育成と「深い学び」を実現する。	○教科の到達目標を設定し、目標実現のために必要な指導内容を教科内で検討し、生徒の学力向上に繋げる。 ○授業改善に係る課題を教職員が各自設定し、研究・検証することで、生徒の「深い学び」に導く質の高い授業の創造を目指す。	A
	主体的に課題を発見し、自立的に解決できることを可能にする「思考力」・「判断力」・「表現力」を育成するため、全教科における教科マネジメントの充実、全教育活動における探究型学習の展開、及びＳＳＨ（スーパーサイエンスハイスクール）事業の推進を図る。	○教科で設定した卒業時の到達目標に基づき授業や考査等を実施し、PDCAサイクルにより定期的に評価する。 ○教科マネジメント力を充実させ、定期考査・校内模試等の質の向上を図る。 ○課題研究や部活動の研究成果を積極的に公開して、外部評価を受け教育活動の推進を図る。 ○学校行事や部活動等をとおして思考力・判断力・表現力・良質なコミュニケーション能力を育成する。	
	学校への帰属意識を高め、自他を認め合う共感的な人間関係や、人権尊重の精神・自律心・配慮の精神を育て、いじめ撲滅に資するとともに「豊かな人間性」を養う。	○教科指導や学校行事及び部活動等すべての教育活動をとおして、配慮の精神等「豊かな人間性」を養う。 ○清掃活動やボランティア活動を通して望ましい勤労観や職業観を育成する。 ○教育相談や面談等、すべての教育活動の中で望ましい人間関係力を育て学校への帰属意識を高める。	
	ＳＳＨ事業の推進・キャリア教育の充実・学びの成果を活用した社会貢献活動の実施により、「高い志」と「確かな価値観に立脚したグローバルリーダー（世界的な視野を持ったリーダー）としての資質」を育成する。	○「STL総合」を生徒の意欲向上につなげ、課題研究を発展させる。 ○専門家や同窓生等外部人材を活用して多角的に指導にあたり、課題研究やキャリア教育の充実を図る。 ○職業観育成講座や大学セミナーなどのあらゆる機会を通して、生徒の「高い志」の育成に務め、自らの進路を切り拓くことのできる積極的な生徒を育成する。	
	社会から信頼される開かれた学校を目指し、地域との連携を図るとともに、本校の教育活動及び取組状況を地域に発信する。	○生徒及び保護者のニーズに応える教育実践で、より満足度の高い学校を目指す。 ○ホームページをとおして学校行事での生徒の不断の努力やリーダー性を、また、公開授業をとおして教員の高い授業力等を保護者や地域に積極的に発信し、信頼される明善高校をつくりあげる。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
教　務	時間割管理・成績処理業務、入試業務等を円滑に運営する。	各種業務について、複数人で行うことで未然に誤りを防ぐ。	B	B	A	○第１学年の観点別評価の導入に伴う教務規程や成績処理の方法の変更について周知できたが、煩雑さがある。成績処理の誤りが生じる可能性を未然に防ぐため、より一層の周知及び点検する点の明確化などを行いたい。○総合的な探究の時間については、STL探究で蓄積した情報を土台として、各時間の計画及びルーブリックを作成し、生徒及び職員へ周知することができた。次年度は第２学年において総合的な探究の時間が週２時間で実施される。体系的な指導となるよう、準備を進めたい。
		校務支援システムの調整を行い、その利用方法を職員へ適切な時期に周知する。	A			
	評価の質をより一層向上させる。	各科目で「深い学び」を検討し、教科指導や定期考査での出題に活かすことで指導と評価の一体化を図る。	A	A		
		令和４年度入学生に対し、観点別評価を実施する。	A			
	「総合的な探究の時間」をより一層充実させる。	ＳＳＨ推進課と連携しながら、総合的な探究の時間の活動内容を計画し、職員へ周知する。	A	A		
		探究の評価ルーブリックを作成し、身に付けさせたい力について、生徒と教員で共有する。	A			
庶　務	早めに計画・立案することで、事前準備を徹底し、式典や各種行事を円滑に実施する。	式典係、保健体育科、学年、各分掌、事務室と連携を密にする。	B	B	B	○式典や保護者会行事について、新型コロナウィルス感染症拡大によって変更を余儀なくされたが、規模の縮小や、安全対策を見直すことで多くの行事を実施することができた。次年度に向けて、庶務業務の継承、もしくは刷新のために、人的配置の検討が必要である。
		保護者会・同窓会と連携し、各種行事を実施する。	A			
		行事毎に記録を残し、改善点を明確にして次につなげる。	B			
広報	中学校や地域社会に本校の教育活動を発信すると同時に、生徒のプレゼン能力を高める機会とする。	学校案内、広報紙「楽天」、「別冊楽天」を作成する。	A	A	A	○学校案内、楽天、別冊楽天については、計画通りにいかなかった点を確認し、来年度に生かしていく。HPのSSHコーナーの改修については今年度は実施していないが、来年度は検討・実施する必要がある。中学生進路相談事業の運搬車両が課題であったが、来年度は車を借りていただけることになった。体験入学は概ね好評であった。来年度はさらに質の向上を目指したい。
		HPの計画的更新、SSHのコーナー改修、LINEの運営。	B			
		行事記録とデータ管理。	A			
		他の分掌と協力して、生徒主体の中学生進路相談事業と中学生体験入学を成功させる。	A	A		
ＳＳＨ（スーパーサイエンスハイスクール事業）	各事業内容を充実、活動の推進を通して、確かな学力や豊かな人間性を身に付け、グローバルな視野を持った科学技術系人材の育成を目指す。	教務課とともに「総合的な探究の時間」（１年１単位、２年２単位）にどのように活かしていくべきかを検討する。	B	A	A	○STL科目の指導、授業改善への取組は、学年や他分掌と協力のもと進めることができた。ＳＳＨ最終年度は、令和６年度以降に自走するための準備を整えるため、学年・教科担当と協議をしながら予算運用を行いたい。また、理数科や科学系部活動の探究活動が質を維持し、継続研究ができるような支援計画を考え、外部助成金等活用を検討する。
		教務課、図書研修課、学ばせ方改革委員会と連携し、深い学びにつながる授業改善の研究開発に取り組む。	A			
		探究活動の成果が主体性等評価に表れ、総合型選抜や学校推薦型選抜に対応できるように指導を行う。	A			
	経過措置期間終了後の自走体制を構築する。	理数科、科学系部活動の研究内容がより高度化するような支援体制を構築し、その成果を発信させる。	B	A		
		経過措置後の活動にも繋がるように考慮しながら計画的に予算を執行する。	A			
理数科	確かな学力を身に付けさせるために授業の充実を図る。	正副担任、教科担当者の情報交換を密に行い、個に応じた指導を展開する。	A	A	A	○日頃の授業および課題研究（STL科学技術研究Ⅱおよび理数探究）を通して生徒同士の議論や試行錯誤の経験を積ませることができた。 ○来年度以降、SSHから外れていくにあたって、これまで積み上げてきたものをいかに引き継いでいくかが課題となる。具体的には、課題研究に使える予算の確保、外部の研究機関との交流、年間を通しての理数科行事の精選などが課題として挙げられる。
		生徒間の議論の場を多く確保することで深い学びの実現を図る。	A			
		課題研究において、試行錯誤の経験を積ませるとともに、外部大会への参加などをとおして活動の充実を図る。	A			
	高い志を持って進路実現を目指すことができる生徒を育てるため、研修や行事の充実を図る。	校外研修やオンラインでの研修をとおして最先端の研究に触れることで、高い志をもつ生徒を育成する。	A	A		
		卒業生との交流やオープンキャンパスを通じて、志望校に対する意識を明確に持たせる。	A			
		理数科独自の行事をとおして、主体的・協働的に活動できる機会を確保する。	B			
総合文科コース	総合文科コースの魅力を実感できる行事を実施し、生徒のグローバルリーダーとしての資質を高める。	歴史・文化・国際交流をキーワードに講義や研修を実施し、視野を広げる機会とする。	A	A	A	○前年度実施できなかった東北研修を夏休みに実施することができ、実際に現地へ行って経験することの意義を改めて感じることとなった。様々な行事において学年間で連絡を取り合い、より良い成果に向けて尽力することができた。○他の部署とも話し合いながら、実施時期や保護者の経済的負担の在り方について来年度もう少し話を進める必要がある。
		実施の時期や方法において、より効果的で効率の良いものを検討する。	B			
		見学や交流において、実際の体験をする機会を持ち、豊かな人間性を育む。	A			
	学年間の連携を取り、生徒が活躍できる場を作る。	各行事において、学年間の連携を強化し、前年度の反省を生かせるようにする。	A	A		
		生徒の行事への参加の様子や活躍を広報活動に活かす。	A			
		行事や部活動以外にも、コンテスト等の参加を促し、活躍の機会を広げる。	B			
生徒指導	生徒の主体性や豊かな人間性の涵養を推進する。	コロナ禍での学校行事や生徒会活動並びに部活動のあり方を工夫し、その充実を図る。	A	A	A	○コロナ禍での学校行事その他の諸活動については、関係する生徒たちの創意・工夫によっていずれもうまく取り組むことができた。また社会規範育成学習についても外部講師の活用等により効果的取組ができた。○交通マナー、特に自転車の運転マナーについては組織的指導は行っているものの、外部から指摘を受けることもあり、生徒の心に届くよう指導のあり方を見直す必要がある。また「命に関する教室」もその重要性から一層の充実をはかる必要がある。
		「命に関する教室」等を通じ、生命の大切さや他者への配慮の精神を養う。	B			
		あらゆる教育活動を通じ積極的に人権・道徳教育を推進し、生徒間の望ましい人間関係の構築を支援する。	A			
	生徒同士が安全・安心で充実した学校生活が送れるよう、対話の機会を増やし、助言する。	感染症対策や交通安全指導等を通じ、安全な学校生活が送れるようにする。	B	A		
		「情報モラル教室」「消費者教室」等の規範意識育成学習を通じ、社会規範や道徳・マナーを周知させるとともに、成年年齢引き下げによるリスク回避を図れるようにする。	A			

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は A：適切である B：概ね適切である C：やや適切である D：不適切である
A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	○総合的な探求の時間については、生徒の考える力を高め活動の充実を図っていると感じる。 ○学習指導要領の切り替わりの学年もあり、方法の変更の際はある程度時間がかかると思うので、丁寧な対応と確実な定着をお願いしたい。
A	○新たなwithコロナのやり方として最大限できていたと思う。
A	○中学校や地域に対して十分に広報できており、未来を担う子供たちの目標であり続ける学校を目指し、広報の質の向上を図ってほしい。
A	○特色ある教育活動として取り組まれ素晴らしい。○質の高い教育の継続とさらなる向上を図るために、外部助成金の獲得は大変有効である。
A	○特色ある教育活動として取り組まれ素晴らしい。○生徒間での議論の場をしっかりと確保し、より深い学へとつなげている。○高校での学びが大学や社会とどのようにつながるのかを知るためにも外部の研究機関との連携交流は進めていただきたい。
A	○特色ある教育活動として取り組まれ素晴らしい。○コロナにより制限された中での研修ではあったが、生徒の自主性を重んじた意義のある内容であった。アメリカ研修の早期復活を願う。
A	○現役生は全く経験のない大運動会でしたが、コロナ以前と全く変わらない、さらに高めた大運動会にしていただいた。○学生数は以前より減っているものの、大運動会等も活発に行われている印象を持った。○次年度からのヘルメット着用努力義務化を踏まえ、命を大切にすることを再三にわたり指導いただきたい。

令和４年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

学校番号 64

福岡県立　明善　高等学校（全日制課程）

自己評価

学　校　運　営　計　画　（４月）

学校運営方針	「克己・盡力・楽天」の校訓に基づく育成を全ての指導の基本とし、「楽天」の域に達するグローバルリーダー（世界的な視野を持ったリーダー）を育成する。 『確かな学力』、『豊かな人間性』を高める主体的な学びを通して、『高い志』を育成する。		評価（総合）
昨年度の成果と課題	**年度重点目標**	**具体的目標**	
ＳＳＨ事業第２期五年次の取組を中心として、全科全学年で課題研究に取り組ませた。その結果、主体的に学習に臨む意欲や姿勢が見られ一定の成果があった。一方、本校教育活動の根幹である授業の質の向上については、授業デザイン研究として改善に努めた。授業における「問い」の工夫をすることや、「評価」について研究することによって一定の成果が見られ、授業と評価の一体化を目指すべくさらに取組を深化させていく。 本年度は、SSH経過措置として、今までのノウハウを活用して課題研究の質の向上を図りたい。 また、前年度に引き続き授業デザイン研究を推進し、授業改善や定期考査及び校内模試等校内実力試験の質の向上に取り組む。また、本年度からの新学習指導要領に向けて教育課程の編成及び観点別評価について検討を重ね、丁寧に作成していく。	「基礎的・基本的な知識及び技能」の確実な習得と質の高い授業や評価の創造を目指し、「確かな学力」の育成と「深い学び」を実現する。	○教科の到達目標を設定し、目標実現のために必要な指導内容を教科内で検討し、生徒の学力向上に繋げる。 ○授業改善に係る課題を教職員が各自設定し、研究・検証することで、生徒の「深い学び」に導く質の高い授業の創造を目指す。	A
	主体的に課題を発見し、自立的に解決できることを可能にする「思考力」・「判断力」・「表現力」を育成するため、全教科における教科マネジメントの充実、全教育活動における探究型学習の展開、及びＳＳＨ（スーパーサイエンスハイスクール）事業の推進を図る。	○教科で設定した卒業時の到達目標に基づき授業や考査等を実施し、PDCAサイクルにより定期的に評価する。 ○教科マネジメント力を充実させ、定期考査・校内模試等の質の向上を図る。 ○課題研究や部活動の研究成果を積極的に公開して、外部評価を受け教育活動の推進を図る。 ○学校行事や部活動等をとおして思考力・判断力・表現力・良質なコミュニケーション能力を育成する。	
	学校への帰属意識を高め、自他を認め合う共感的な人間関係や、人権尊重の精神・自律心・配慮の精神を育て、いじめ撲滅に資するとともに「豊かな人間性」を養う。	○教科指導や学校行事及び部活動等すべての教育活動をとおして、配慮の精神等「豊かな人間性」を養う。 ○清掃活動やボランティア活動を通して望ましい勤労観や職業観を育成する。 ○教育相談や面談等、すべての教育活動の中で望ましい人間関係力を育て学校への帰属意識を高める。	
	ＳＳＨ事業の推進・キャリア教育の充実・学びの成果を活用した社会貢献活動の実施により、「高い志」と「確かな価値観に立脚したグローバルリーダー（世界的な視野を持ったリーダー）としての資質」を育成する。	○「STL総合」を生徒の意欲向上につなげ、課題研究を発展させる。 ○専門家や同窓生等外部人材を活用して多角的に指導にあたり、課題研究やキャリア教育の充実を図る。 ○職業観育成講座や大学セミナーなどのあらゆる機会を通して、生徒の「高い志」の育成に務め、自らの進路を切り拓くことのできる積極的な生徒を育成する。	
	社会から信頼される開かれた学校を目指し、地域との連携を図るとともに、本校の教育活動及び取組状況を地域に発信する。	○生徒及び保護者のニーズに応える教育実践で、より満足度の高い学校を目指す。 ○ホームページをとおして学校行事での生徒の不断の努力やリーダー性を、また、公開授業をとおして教員の高い授業力等を保護者や地域に積極的に発信し、信頼される明善高校をつくりあげる。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
保　健	基本的な生活習慣を身に付けさせ、健全な心身を養う。	学校内外関わらず主体的に感染症拡大防止を意識し、行動ができる生徒の育成を図る。	B	B	A	○献血の実施や薬物乱用防止講話での質疑応答の充実を図り、社会貢献や健康・生命について深く考える機会を設けることができた。また、「心を磨く掃除の会」では、多くの生徒が参加し、学校と地域のつながりを大切にしながら社会貢献に努めることができた。○個に応じた教育活動の支援の実現に向けて、SCや心の健康相談、教育相談委員会の充実を図り、きめ細やかな支援ができるよう努めた。○午睡に関しては効果的に促すことができなかったため、次年度の課題にしたい。
		午睡の時間や保健だよりを活用し、健康的な生活習慣に関する情報を発信・実践する。	A			
		午睡の時間を活用し、活力ある学校生活が送れるように支援する。	B			
	自己や他者を大切にする気持ちを育む教育活動の充実を図る。	献血セミナーや薬物乱用講話などを通し、「命の教育」を実施する。	A	A		
		「心を磨く掃除の会」を通して、社会貢献の精神や豊かな人間性を育む。	A			
		個に応じた教育活動の実現のために、専門機関と連携し、教育相談委員会の充実を図る。	A			
進路指導	校内模試・実力テストにおいて、質の高い問題作成、評価を行うことで、「確かな学力」を育成し、生徒の進路目標の実現を果たす。	校内模試・実力テストの問題作成を行い、教員の教科指導力の向上を図る。	A	A	A	○１年生の東京研修実施に向けて準備を進め、実施にこぎ着けることができた。働き方改革の一環として校外模擬試験の監督人数の削減を行った。○校内模試については内容や実施日の検討や改良を行い、より実践的で効果的な模擬試験となるよう努めた。今後も教科内で作問や結果について十分な検討がなされるよう促していく。○土曜教室・課外授業については、学校全体で考えなければならない問題ではあるが、今後の科目の指導内容や大学入試改革の動向を見ながら検討していかなければならない。
		校内模試・実力テストにおいて、各教科の到達目標を設定し、学力を適切に評価・把握する。	A			
		生徒のデータを進路指導に役立てるため、効果的な運用方法を検討する。	B			
	キャリア教育を充実させることで、「豊かな人間性」「高い志」を育む進路指導を計画的に行う。	職業観育成講座・大学セミナー・進路講演会等を通じて、進路意識の向上を図る。	A	A		
		難関校の指導方法や模試成績等の情報を共有し、効果的な進路指導を行う。	B			
		入試情報の収集と情報の共有、生徒情報の共有を行い、第一志望を貫く指導を全教員で行う。	A			
図書・研修	生徒の実態を踏まえた人権教育授業の充実および「高い志」の育成に資する生徒の読書活動の推進	各学年の実態に即し、年２回の人権教育授業を計画・実施する。	A	A	A	○生徒の実態を踏まえた人権教育授業について、今年度は第２学年の修学旅行と関連付け、震災における人権について考える授業を実施することができた。次年度も、今日的課題を取り上げつつ、より本校生徒の実態に応じた授業を実施していきたい。○職員課題研究については、学ばせ方改革委員会と連携し、全職員の公開授業および相互授業参観を実施することができた。実施期間として約二カ月を設定していたが、行事の関係で実施時期に偏りができてしまったため、期間についての見直しを行いたい。
		次年度の教育内容に活かすため、授業実施後にアンケートを実施・分析する。	B			
		図書委員を中心に、朝読書、読書会、図書館週間等を企画・運営する。	A			
	「深い学び」につながる「問い」と「指導と評価の一体化」をテーマとした職員課題研究（研究授業）の実施	学ばせ方改革委員会と連携し、今年度の授業改善計画のあらましを「授業改善のための工夫シート」に記入してもらい、回収する。	A	A		
		相互授業参観期間を設け、全職員に「授業検証シート」を基にした検証授業を実施してもらう。	A			
		実施した授業の評価・分析を全職員が行い、その結果を研究紀要に掲載する。	A			
第１学年	規則正しい生活習慣を確立させ、自ら積極的に学習する生徒を育成する。	新入生オリエンテーションにより、明善の校風や習慣を理解させ、無理のない高校生活の導入を図る。	A	A	A	○新入生オリエンテーションは、昨年度と概要を変えたが比較的充実することができた。しかし、宿泊研修を実施していない影響かきちんと挨拶、時間管理が例年よりできていない。継続指導をしていく。○学習習慣は、調査によると確保できているが、教科の偏りが例年よりも大きかった。英数国中心に計画的に取り組むよう指導が必要である。進路指導的には、難関大の志望者が増加したが、九大志望者はやや減少しており、面談などで内容、理由の確認をしていきたい
		基礎・基本の徹底と学習習慣（特に家庭学習）の定着を図り、学習活動を充実させる。	A			
		高い志を持たせ、自己実現のイメージを持たせるために、キャリア教育を充実させる。	B			
	豊かな人間性を育むために、部活動や学校行事に主体的に取り組ませる。	積極的に学校行事に参加させ、様々な経験をさせることにより、広い視野を持たせる。	A	A		
		部活度を奨励し、文武両道を目標に逞しい生徒の育成を図る。	A			
		各種行事、集団において、リーダーシップを発揮できる機会を準備する。	B			
第２学年	「豊かな人間性」を育むため、基本的な生活習慣を更に確立させる。	「凡事徹底」当たり前のことをきちんと行うことで生活のリズムを整える。	A	A	A	○昨年度と違い、学校行事等で集団行動をとることにより、生徒一人ひとりのあり方や立ち振る舞いを学ぶことができた。また、日常生活において当たり前のことをきちんと行うことの意識を養うことができたと思うが、行動にだすことがあまりできなかった。○修学旅行を通して、命の大切さや尊さを理解させ、これからの人生の励みに繋ぐことができた。また、集団の素晴らしさを更に感じることできた。学習面においては、中だるみがあまりなく進路実現のため取り組むことができた。
		学習の習慣を確保し、自分で考えて取り組むことができるようになる。	B			
		学校生活を充実させ、人と接することの大切さを理解させる。	A			
	「自主性の育成」を柱とした、個々の成長とリーダーシップの育成を目指す。	支援が必要な生徒の早期発見と早期対応。	A	A		
		集団におけるリーダーの必要性とその環境の在り方について理解させる。	B			
		時間の自己管理を行い、時間を有効的に使うことができるようにする。	A			
第３学年	受験に向けて、基本的な学習習慣を確立させ、希望進路の実現を図る。	基本的な生活習慣・学習習慣を確立させる。	B	A	A	○休み時間の教室環境は、黙食の徹底ができており良好であった。また、学校行事についても、コロナ禍にもかかわらず、例年に近い状況で教育成果を残すことができた。特に、大運動会後の生徒の変容ぶりは素晴らしいものがあった。大運動会による成績の低下もあまり感じることもなかった。しかしながら全体的には生活習慣の面で課題が残った。コロナ禍による影響もあるが、学校行事や模試の後に欠席者が増加する傾向にあり、３年生の大事な時期でも欠席者の数が非常に多かった。受験を通して、精神的にさらなる成長を促したい。
		午睡、黙食等を利用し、休み時間の教室環境を整え、周囲に配慮する精神を養う。	A			
		学年教員団の共通理解を深め、高い志、及びチャレンジの精神の育成を行う。	A			
	新しい学校行事を創造し、今後の学校生活の変化に順応できる形式を作り上げることを模索する。	積極的に学校行事に参加させ、豊かな人間性を育む。	A	A		
		学校行事を牽引するリーダーを育成する。	A			
		部活動の引退後・学校行事の前後における切り替え指導を丁寧に行う。	B			
学校事務	経営参加型の事務室業務を推進する。	生徒・保護者のニーズに応えるため、より効果的な予算の編成・執行を行う。	B	A	A	○厳しい予算状況の中、緊急性及び生徒の安全を最優先し、費用対効果の観点から適切な予算執行に努め、学校経営目標が実現されるために教職員全体で情報を共有・連携し、予算面からの効果的な支援を行った。○生徒保護者に対しては、分かりやすい文書の発出、丁寧な応対・説明を心がけ、的確かつ迅速な情報発信を行った。
		各分掌と情報の共有化を図り、学校経営目標が実現するための事務処理を行う。	A			
		生徒・保護者に対して、より分かりやすい内容で的確に情報発信する。	A			

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

○学校行事等、学校の運営面について、コロナ以前に戻すことを目標に計画、実施してきたが、withコロナの考え方に則ったさらに進化した学校運営について、生徒、職員一丸となってそれぞれの役割を果たすための会議又は組織の構築を目指す。
○学習指導要領やSSHの移行に関して、SSH推進課、教務課との連携をさらに進める。

学校関係者評価

評価（総合）	
A	自己評価は Ａ：適切である Ｂ：概ね適切である Ｃ：やや適切である Ｄ：不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	○午睡の促進策に期待したい。○午睡の効果をより実証できるよう取り組んでほしい。○悩みや困りごとを抱えている生徒に対してＳＣや心の健康相談の充実は大変心強い取り組みである。
A	○進学については、多様性があり、明善らしさが表れている。○生徒の進路意識の向上がしっかりと図られている。○これまでの学びをベースにしながらも、激しい時代の潮流を掴み自ら進路を切り開く力を育み明善生のさらなる飛躍が見込まれるよう進路指導をお願いしたい。
A	○授業の相互検証が十分に実施されている。○授業アンケートを更に利用してほしい。○ＧＩＧＡスクール構想によりＩＣＴ化は進んでいるが、活字の大切さはこれまでと変わらないと思うので活字離れとならない図書指導を望む。
A	○宿泊研修の実施はぜひお願いしたい。○各学年、電子黒板やタブレットを方法面としてうまく活用し、思考･判断･表現を高める授業に取り組まれている。○新学習指導要領になり指導は試行錯誤になると思うが、確かな学力の定着を期待する。○難関校志望者の増加は喜ばしい。
A	○凡事徹底の実践を更に行ってほしい。○学習指導要領改訂前最後の学年でもあり、進路指導においても気を遣う学年となるため、基礎基本を大事にした学びを期待する。○各学年、電子黒板やタブレットを方法面としてうまく活用し、思考･判断･表現を高める授業に取り組まれている。
A	○大運動会を通してリーダーの育成、生徒一人一人の成長がしっかりと確認できた。○各学年、電子黒板やタブレットを方法面としてうまく活用し、思考･判断･表現を高める授業に取り組まれている。卒業して明善生で良かったと思ってもらえるとよいなと感じる。
A	○今後も、適切な事務作業をお願いしたい。○文書について適切な説明対応がなされていた。予算厳しき中、よろしくお願いします。

評価項目以外のものに関する意見

これからも日本を、世界をリードする人材を輩出する明善校であり続けることを目指し、時代の流れに敏感に柔軟に対応する学校運営をお願いする。